

## みんなで動く学級をめざして

古 谷 美恵子\*

各種グループが学級内にある。生徒はその中でもまれながら成長してきている。しかし、そのグループが、反社会的な状態であったり、又、一人で怠学傾向を示している生徒がいる場合は、どう対処していったらいいのだろうか。ここに焦点をしまして、取り組んでみた。

### I 研究の目的

男子5人のグループの言動によって、マイナスの方向に学級全体が動かされている。又、一人で退行現象を持っている生徒もいる。このことは、学級経営上の問題であるだけでなく、あらゆる教育活動の障害である。彼等とのかかわり合いを通じて、「学級内における彼等の位置」を理解し、さらに、「彼等の学校適応をいかにすべきか」に焦点をあてて、取り組んでみた。

### II 生徒の状況

1 対 象 中学校 2年5組(男子16名,女子23名,計39名)  
特に、男子A, B, C, D, E, 及びSに焦点をさぼる。

#### 2 問題の概要

彼等は、1年生時に「手におえない、発想の仕方がどうもズレている」と、度々話題にのぼっていた生徒達である。小学校1か校からそのまま入学ということも原因してか、生徒の間でも、「あいつは、もう、あゝなんだから……」との諦めのムードも見られた。

5人グループについては、4月の始業式以来、学級の話し合い、決議事項は、このグループの独占的発言により、「イヨーッ、イヨーッ」と片付けられる。彼等の声の大きさと押しの強さに、クラス全体が流されているようで、異常な空気すら感じられた。

他方、Sについては、自分の思うがままに登下校しているようで、授業のサボりも多い。教室にいる時は、ホラをふいたり、喜んで皆にかまわれていることが多いが、いない時には、「どうせ、また」とクラスの生徒達も、黙って見ているだけである。

#### 3 彼等をめぐる状況

##### (1) 日常観察

A, B, C, D, E; 体格はBを除いてクラスの中では上。スポーツを得意とし、AとEが野球部、

\*新潟市立松浜中学校

BとCがテニス部、Dがサッカー部に所属している。言動が粗暴で喧嘩っ早い。いずれも、二人以上の時は強気になるが、一人の時は、いたっておとなしい。

S；体格はクラスの中で上。他クラスの仲間と一緒に授業をサボったり、欠席することが多い。話しかけても、いやな様子はみせず、それに応じて、自分の方からもどンドン話し出す。

## (2) 学業成績

1学年末の5段階評定によると、9科目の平均は次の通りである。

A — 4.4    B — 2.2    C — 4.0    D — 3.1    E — 2.3    S — 1.1

なお、所見欄には、次のように記されていた。

A；企画性は抜群の力を持つ。後半、ワンマンぶりをうまく利用して仲間をまとめ、リードしてくれた。

B；根は明るく素直であるが、強い者に支配されやすく、人の尻馬に乗って、粗暴な言動をとり、クラスの反発心を煽ったこともある。

C；自己中心的な考え方や行動をする。自分の得になることには積極的に取り組むが、それ以外は投げ出してしまう。

D 明朗快活。興味本位で行動するため、やることに一貫性がない。

E；万事控え目で、仕事の処理は雑である。(S52.10から転入)

S；生活態度が悪く、けじめがない。悪いことでも、人に言われるとすぐやる。怠学傾向が目立ち、クラスの雰囲気を変えた。(流行性耳下腺炎による出席停止7日、かぜによる欠席10日、怠学による欠席38日)

## Ⅲ 実践の経過

### 1 方針と期待

#### 5人のグループについて

小学校以来7年余で築かれた力関係(他生徒との)であるが故に、これを崩すことなどできないだろうが、まず、クラスの中で彼等のしめる位置を十分に観察してみたい。

グループの中心と見られるAは、1年生時も担任し、ある程度気心が知れているため、話し合う時間を特に設け、できるならば、良きリーダーとなることを期待したい。

#### Sについて

暗い性格でも、消極的でもないのに、怠学傾向が出ていたのは、どこに起因するのか、本人は、どこをどんな風に努力していけばいいのか、彼と話し合う機会を持ち、二人で考えていきたい。

クラスに真の友人ができ、共に活動していく喜びが得られるように、また、クラスの他生徒にも、Sの考え方、行動に関心を寄せ、且つ、バックアップするような体勢を作っていきたい。

以上の方針を立て、期待を抱いて、クラス全体の動向を背景に、5人グループ及びSとのかかわり合いを持つに至った。

## 2 経過の概要

### 〈4月の動き〉

○学級委員長にAが選出。班編成等、クラスの組織化を進める。(A, D, Eは各々別の班へ。BとCは班長の引き取り手がなく、頼み込んだ末、一緒に某班へ。)

○CとE, 規定外の学生服の売買をして、見つかる。

・5人グループを含む同学年男子30数名, 他校生徒と喧嘩未遂事件で警察から通報を受ける。等々, 5人にまつわる問題が多発。事情聴取やら説得やらで, なごやかに触れ合う機会にはもち得ない。

○Sは保健専門委員に選ばれた(Dの推せんで)。気がかりな点もあったので, 相談室で話し合う。

私以上に言葉多く話してくれた。兄が死んで(4月初め, 事故死), 自分が後継ぎとして家族から期待されていること, 中学校でも落第ということがあるかも知れないこと, 等。今迄のようではいけないと思っている節は多いが, 気が弱くて, すぐ誘いにのってしまう所に, 悩みがあるらしい。しばらくは話し相手になってやるのが最善策のように思われた。

某日, 「今日は一日中学校にいた。自分でも珍しい」と班ノートに記している。(4月, 忌引及び, それに関係した欠席4日, 欠課16時間)

### 〈5月～8月の動き〉

T ⇄ 5人グループ

5/○ 放課後, B・Dと相談室で二人共, 拒否の構えが強かったが「Sのことだけ」と前置して, T; 合宿でSと同室になるんだけど, N達の誘いにのらないように一緒にいてほしい。校旗掲揚の時は, 決してはやしたてないで, このクラスからは励ましの言葉が出るように, Sは, 保健委員という役が既にあるのだから, これからは, もっと他の人に。

B・D; どうだかなあ, まあ, やってみるサ。

T; S自身, あれこれ考えているんだけど, 意志が弱くてと言っているんだヨ。

B・D; ヘー Sがねえ。まあ, やるだけやってみるサ。

Sだけの話題で終り, B・Dの問題にまで及ばなかったことに安堵した様子。

5人 ⇄ クラス ⇄ S

○学級目標は, 班討議の形式は踏んだものの, Bの勢い込んだ提案で, 即決定。

○五頭少年自然の家へ合宿(学年行事)での校旗掲揚係のクラス代表として, DがSを推薦, 即決定。

皆は, B・Dの意見を心から支持するというよりはむしろ, 「オモッシャー(面白い)」という動きの方が感じられた。

Sも, 特に困惑の素振りは見せない。

T ⇄ S

5/○ 放課後, 相談室で, この日は第3限から見あたらず, 終学活に教室へ戻る。声をかけると, 案外気持ちのいい返事。

ずっとN(他クラスの仲間)と一緒に, ギターを弾いたり話したりしていたとのこと。誘われるとつい……誰かに止めてもらえればいいかもと言う。Nと一緒にいると楽しいというよりは, 彼の相手は自分しかないのではということらしい。S自身も, 授業よりはめんどくさくないしという気もあり, 断われないでいるとのこと。反面, 口ぶりから, 今のままではダメになってしまうという焦りが感じとれる。結局, SからNに「このままでいいのだろうか」話してみたらとの提案で分れた。

## 5/○ 合宿先の研修センターで

5人と他1人が深夜になっても女子の部屋へ出入り。どうしても許せず、約束通り、彼等と廊下に座って徹夜するハメになってしまった。初めの緊張も次第に解け、襲ってくる睡魔お互いに苦笑したり、白んでくる窓外に眼をやって喜んだりのつき合いだった。しかし、これを境にして彼等が一層、心を閉ざしてしまいはせぬかと、それだけが気懸りだった。

## 5/○ 放課後、Aと相談室で

(2年生の問題点について、内容略)

○翌日から、全体へ話は伝わる。が、彼らの非をせめるなどの気配は到底望めず、「悪運をひいたな」という程度。逆に、「女の先生がそこまでするとは、鬼に見えた」との声すら聞えた。

当人達もシコリは皆無。

○Sは、N達との交わりは特になかった様子。

○B.Cの班長から、「二人の勝手な言動に我慢できない」との苦情が班ノートに記される。

## 5/○ 放課後、相談室で

前日、亡兄の49日で早退、父の職場、今月末で倒産とのこと。

Nの誘いには、はっきり断られるようになったので、この方はもういいと話す。今度は、勉強を一生懸命やることと、忘れ物をなくすことを頑張らなくてはとのこと。いつも班やクラスの皆が見守ってくれていることに対しては、嬉しそうな表情を見せていた。

(5月、かぜによる欠席2日、欠課6時間)

## ○学年スポーツ大会で、男子 第2位(バスケットボール)、女子 第4位(ドッジボール)

5人グループの喧嘩腰の活躍による。彼等は英雄気取り、他の男子は、クラスの代表を讃えるというよりも、彼等の実力には口出しできないという様子。

6/○ 総体2日目で一部の生徒が残留。B、C、D、Sが昼食後、学校前のラーメン屋へ走る。「Sがカサの忘れ物をとりに行き、他の3人はつき添いだった」と初めは嘘を言う。放課後、詳細を話してくれたが、どうやら、Sが時間をまちがえて、校内の赤電話から注文してしまったので、皆で食べに行ったとのこと。この日から、相談室にて、放課後5分間の坐禅を1週間続けた。不思議と文句は出なかったが、明らかに「マズイこと」をしてしまった観念からか。「もう、やられ(いやだ)、こりごりだあ」とは、彼等共通の言。他生徒には、話題にならずに終わった様子。

○B、Cの属するレクリエーション班の企画・運営による、初のスポーツ大会。5人が同じチームになるように編成されていたが、他男子も、それを好んでいる様子うかがえた。なかなか好評だった。班長は、「やっと、一つだけやり遂げた」と、ホッとした様子。

○期末テストが近いので、数学の特訓PART、Iと称して、Bを含めた男女4名と学習した。違った仲間の中でのBの様子を知るキッカケになればと思った。Bは、終始イライラして落ち着かない。仲間と離れたためだろうか。私に反抗的になる。

## 6/○ 放課後、相談室で

授業中はそんなに嫌でなくなった、時々騒いで怒られるが、と話し出した。水泳部も面白いし、今度部長になったので、煩しいこともあるが、それ以上に水泳をやりたいので、しっかりやっていこうとも話した。

市の大会へ参加してビリだったこと、夏休みの予定、と話題が尽きない様子。

○数学の特訓PARTⅡ。この時間もBは乱暴な口調で、投げやりの様子が続いた。

6/○ 放課後、Aと相談室で、  
クラスの男子は、活動的であるかないかで2派に分かれているとのこと。

Aを入れたグループと他の男子では話題も異なるし、何となく合わないらしい。弊害がないとは言えない様子。

○学年スポーツ大会で、男子 第2位(ソフトボール)、女子 第1位(バレーボール) 前々から、「今度こそ、優勝の自信がある」と広言していたが、決勝戦で惜敗。メンバーは、全員一巡はするものの、最終的には、Aの指示で抜擢された者が奮戦。他男子も実力の点で、もはや、黙認。

7/○ A、Bと教室で、  
前日の個人懇談会で、母親に「心身鍛錬合宿」に参加させてほしいと話したため、朝から不気嫌だ。「親にコントロールされる必要なんかないじゃないか」と主張し、放課後にまで及ぶ。

B; 俺の悪い事ばかり言って、いい事話してくれたんですか、頼むから家へ電話しなして下さい。

T; まるで、幼児が注射を嫌がって、ダダをこねているみたいじゃないの、

A; 注射はその時しくちゃ困るけど、合宿なんかやらなくとも、ちっとも困らない。

思わず、苦笑してしまった。C、D、Eは何も言わず知らん顔。

○他の生徒は、この話題に触れようとしない。5人グループの行いは見てきているし、直接、自分に関係ないということらしい。

ただ、次第に前方を見ようという姿勢がうかがわれた。

(6月 かせによる欠席1日、欠課7時間)

○昼休み、心暖まる光景を見た。Sが、同クラスの男子達と手つなぎオニをやって遊んでいた。しかも、Sが手をつないで一緒に走っていた相手が、無口で友人も少ない生徒である。驚き、且つ嬉しかった。やっとな、抵抗なくクラスに溶け込めたかなと。

○遅刻は、相変わらず多いが、授業はサボらずに出ている模様。終学活、清掃まできちんとやってから帰宅するところがあたり前になってきているので、Sと2人で喜び合う。

しかし、依然として、提出物の忘れ等は直らない。クラスの約束で、また1週間、坐禅をするハメになった。Sの場合、5人グループと異なり、これは、何の効き目もないのだが。

(7月、腹痛による欠席1日、欠課なし)

○「心身鍛錬合宿」は、参加希望者が僅少のため、やむなく中止となった。

○学期末に「私達のクラスを診断しよう」と題して、アンケートをとってみた。その中で、「あなたはこのクラスの一員として満足していますか」の問いに対して、満足している30%、普通70%、満足していない0%、という回答であった。また、「このクラスに友人がいるとしたら、3人まであげて下さい」の問いに対しては、男子は、殆んどが「男子16名」と答えている。真意が分かりかねた。

○夏休み、学年水泳大会で、男子 第1位、女子 第2位、総合優勝

AとCは不参加だが、B、D、E、及びSの力泳が目立った。他生徒にも平等の機会が与えられた。

### 〈9月～10月の動き〉

#### ○青松祭(運動会)のチーム結団式で

1～3年の合同チームでの2年生のしめる位置は大きく、「3年生はなめられている」と言われた、某先生の考えがあたっていると考える言動が見られる。事前にAを呼び、「リーダーを選ぶ際は、とんでもない人をデッチあげないように」と話しておいた。勿論、心よく承知などしてくれなかったが、すぐ、グループ内には伝えられた模様。結局、学年・応援リーダーには、BとEが推薦され決定。グループも彼等がやることには協力的だった。この頃から、女子の支持が急速に増えてきた。

#### ○生徒会三役改選で

何故か、Aが、2学年推薦で会長に立候補することになった。責任者はC、ポスター製作には女子がかって出た様子。立合演説会では、相当あがっていたらしく、失敗の連続で、皆を爆笑させただけ。投票の結果、少差で敗れた。Aは後日、班ノートに次のように書いている。「〇〇先生に、“Aよ、おまえが会長にならなくてよかったなあ”と言われた。俺もそう思った」

#### ○クラスの組織替え

正副委員長、班長を改選。委員長にはAの言う“穏健派代表”の男子が決定。結局、Aは、班長としてのみ残る。A、Cは同じ班、B、D、Eは各々別の班へ。クラスの様子はというと、既に、5人グループであるなしかかわらず、全体が騒ぎ立てている。

○Sは、話しかけても、めんどくさいといった様子を見せるだけだ。

## Ⅳ お わ り に

4月からの動きをふり返ってみて、目的の達成にはほど遠く、ただ生徒にふり回されて現在に至ったように思える。5人グループについては、クラスの中で暖かく見守って行き、むしろ、他生徒との接触を通して、一緒にもまれ、成長していくことを期待していた。しかしながら、実際は、5人にまつわる問題が続出し、「目立って怒られている」ようななかかわり合いになってしまった。彼等の言動も依然として変わらない。しかも、クラス全体が、「5人グループは、それほど困った存在じゃない」と感じているらしく、担任としては、「なんとかしなければ……」との考えと大きくくい違うのには啞然としてしまった。今後は、グループ外の生徒に焦点をあて、今までと逆の見方をしていくことが、新しい課題かと思われる。

他方、Sについては、カウンセリング云々という以前に、家庭の環境(兄が亡くなったこと)が、彼を「今のままではダメなんだ」と発奮させたものと、回を重ねるにつれて理解できた。遅刻、忘れ物等はまだまだ多いが、一日中、クラスの皆と行動を共にする生活に自然さが出てきたようだ。しかし、学習していける段階には至ってない。

クラスの一人ひとりの生徒の心に眼を向け、「みんなで動く学級」を改めて考え直し、これをめざしていきたいと思う。